

指導と評価の計画【地理歴史科：世界史A】

単元名 現代世界の歩み (第一次世界大戦に至るまで)	内容のまとめり (3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和
---	--

1 単元の目標

- ・諸資料を活用して、帝国主義や世界分割の形成の仕組みを理解し、現代世界が第一次次世界大戦へ歩んだ歴史的経緯を理解する。
- ・ヨーロッパを中心として一体化が進んでいった世界の枠組みの成立について、事象の背景や、具体的な原因、また結果や影響などに着目して多面的・多角的に考察し表現する。
- ・帝国主義による世界分割と第一次世界大戦前後の世界の動向に対する関心を高め、意欲的に追究し、よりよいグローバル社会の形成について主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・諸資料を活用して、帝国主義や世界分割の形成の仕組みを理解し、現代世界が第一次次世界大戦へ歩んだ歴史的経緯を理解している。	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して帝国主義の成立と世界大戦を相互に関連付け、主題について多面的・多角的に考察し表現している。	・よりよいグローバル社会や情報社会の実現を視野に、自身や現代とのかかわりを踏まえて、現代世界の歩みについて主体的に追究しようとしている。

3 指導と評価の計画（4時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次	第1時	【ねらい】資料を基に、帝国主義の国の動向を多面的・多角的に考察し表現する。 主題 現代世界の歩み(第一次世界大戦に至るまで) 課題 大衆化や情報化・世界の一体化が帝国主義の国々に何をもたらしたのだろうか。				事象の背景や原因に着目し、帝国主義の国の動向に関して多面的・多角的に考察し表現している。
	第2時	主題や問いに対する見通しをもつ ・「帝国主義の国々がなぜ植民地獲得に乗り出していくのか」について考察し、見通しをもつ。 課題を追究したり解決したりする ・「植民地支配の拡大」に関してペアワークや発表により自身の考えを見直し修正するなどして文章で整理する。		○		
	第2時	国際関係の追求 ・第一次世界大戦前の国際関係に関して、資料や既習事項の確認を踏まえて学習する。 (資料)日英同盟・英仏協商・露仏同盟を著した絵画	●			ヨーロッパの国際関係や、第一次世界大戦に向かうまでの国際情勢の変化を理解している。

第②次	第3時	<p>【ねらい】大衆化や情報化により帝国主義の国に何がもたらされたかを考える。</p> <p>課題 急変した社会により、その後の世界に何がもたらされるのか。</p>			
	第4時	<p>課題を追究し解決する</p> <p>・諸資料やペアワーク、仲間の発表を聞いて、19世紀後半から20世紀にかけての社会の変化を理解し、どのような影響を与えたかを考察する。</p>	●		<p>同時代の人々が大きな社会変化をどのように受け止め、今後の世界にどのような影響を与えていくのか考察している。</p>
	第4時	<p>学習の振り返り</p> <p>・よりよい社会の実現を視野に、自身や現代とのかかわりを踏まえて、「現代世界の歩み」での自分たちの学習について振り返る。</p>		○	<p>より良い社会の実現を視野に、自身とのかかわりを踏まえて、現代世界の歩みから、現代はどうなっていくのかがいいのか主体的に追究しようとしている。</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」

第2時の●印は、それまでの学習でのドイツを中心としたヨーロッパの国際関係や、第一次世界大戦に向かうまでの国際情勢の変化を資料やヒントを用いて、理解しているかどうかをワークシートなどから確認する場面を表している。

(2) 「思考・判断・表現」

・第1時の○印は、「なぜ植民地支配が拡大されていくことになったのか。その背景には何があったのだろうか」ということを、既習事項の産業革命や市場の論理などと関連付けて説明する場面を想定している。

次の例1は第1時の○印の場面での生徒の記述例であり、植民地支配の拡大に関して、市場の論理や産業革命の背景を関連付けて記述していると評価できるため、「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる。

<例1:「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例>

<p>まとめ なぜ植民地支配がこんなに拡大することになったのだろうか??</p> <hr/> <p>製品や余剰資本の輸出先、新たな市場の開拓などで植民地があると良いから。</p> <hr/> <p>植民地を持つことで、その国が発展し続けることができるから。</p> <hr/>

(※記述は学習支援ソフトで記述したものを使用)

・第3時の●印は、世界の一体化、情報化の進展、大量生産大量消費社会、教育の普及などの大きな社会変化が、同時期の帝国主義政策の国家や、今後の世界の歴史にどのような影響を与えたかを、仲間の

発表や、第1時、第2時の学習事項も踏まえて考察できているかを示している。

次の例2（2人分の記述を記載）は、第3時の●印の場面での生徒の記述例であり、社会の変化が与えた影響により帝国主義政策が推進され、植民地支配や、戦争と関連付けて記述していると評価できるため、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

<例2：「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例>

Q1 大きな社会構造の変化は、各国の帝国主義政策にどのような影響を与えたか

生活水準が上がり、大量生産、大量消費が浸透していった。マスメディアによって情報が早く伝わるようになり国民意識・思想統一の向上につながった。そして通信面での世界の一体化がされ地球規模の人口移動が拡大し、各国の植民地支配が進んだ。

Q1 大きな社会構造の変化は、各国の帝国主義政策にどのような影響を与えたか

大衆の生活水準が上がり、大量生産、大量消費が浸透していった。情報を得るための手段としてラジオ、新聞、雑誌があり伝達が早くなった。才能のある人材を育てるために、教育も普及しよりよい暮らしがしたくて戦争も増えていった。

次の例3の記述は、社会の変化について触れることが出来ているが、帝国主義や植民地政策に関連して考えることが不明確となっているため、「努力を要する」状況（C）と考えられる。そのため今後の学習に向けて、既習の内容と関連付けながら歴史の流れや背景などを推察できるように促していくことが必要である。

<例3：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述>

Q1 大きな社会構造の変化は、各国の帝国主義政策にどのような影響を与えたか

マスメディア、情報の急激な進化により情報がより早く伝わるようになった。各国の政府はこれを生かして、マスメディアを国民統合のために利用した。

（3）「主体的に学習に取り組む態度」

・第4時の○印は、19世紀後半から20世紀にかけての現代世界の歩みに関して、「帝国主義」や「植民地」、「社会構造の大きな変化」が歴史にどのような影響を与えたかを理解し、自身との関りを踏まえて学習を振り返り、よりよい社会の実現に向けた考えを表現しているかを評価する場面を表している。

【評価基準】

・帝国主義や植民地、社会構造の変化など学んだことを踏まえ、よりよい情報化やグローバル化に対して今後の自身の行動や考え方（社会としての在り方）が明確に書かれているものを「満足できる」（A）とする。

・よりよい情報化やグローバル化に対して、今後の在り方について触れられているものを「おおむね満足できる」（B）とする

・情報化やグローバル化に明確に触れられておらず、よりよい社会をいかに築くか考察されていないものを「努力を要する状況」（C）とする。

次の例4の4つの記述は、「現代世界の歩み」における学習を振り返り、第一次世界大戦や、第二次世

界大戦に向かっていく世界情勢を踏まえ、この時期の問題点を現代の課題と結び付け、情報化が促進される現代における個人としての情報への向き合い方や、多様性を受け入れる姿勢、政治参加の必要性に結びつけようとする事ができていると評価できる。

<例4：「満足できる」状況（A）と考えられる生徒の記述例>

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(フリント No26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

・グローバル社会の進展によって自分が古い人間になることを理解する。
・情報化社会になることでより世界の文化が私たちの生活に入りこむので多様な考え方を許せる心を持つことが大切になると思った。多様な考え方を許せるようになるために若者は自分の意見と違うものに対して「なるほど、そんな意見もあったのか」と別視点から考えてみる力を養っていく必要があると思った。

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(フリント No26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

19世紀は社会が変化していくことで、戦争に進んでしまった。
私たち世代も今インターネットが普及したりなど社会が大きく変化して同じような状況だと思う。でも戦争に進むのは犠牲者が出るなどしてよくないので、進展した情報機器を使っていろんな世界の人や文化を知ったり理解しあったりコミュニケーションをとったりなど良いことに使っていくべきだと思う。
私たち行動するのも大切だが、影響力が大きい指導者もよりよい社会を築くには大切になるので選挙で適当に選ぶのではなく、世界の人に移住してきて住みやすいまちづくりなどグローバルな取り組みもしている人を選ぶべきだと思う。

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(フリント No26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

グローバル社会を築くために、異国の文化や習慣を知り、寛容な態度をとることが必要だと思う。
全く知らない文化や習慣について、拒絶するのではなく、「こういう文化もあるんだ」という態度で頭を柔らかくする。
情報化社会では、虚偽の情報に振り回されたり、SNS上の意見に振り回されずに、自分の意見を貫く姿勢が大切だと思う。

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(フリント No26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

今の時代はインターネットを当たり前のように使っているから政治状況や国際関係が簡単に理解できる。しかし昔ほど政治、国際関係に興味を持っていないことも事実である。
そんな私たちがより良い社会を築くには、情報化社会に慣れているからこそ外国の人とインターネット上でかかわってみたり、政治の在り方に関心を持つことが大切であると考える。
国同士が対立するという考え方をやめ、協力していい社会をつくるという考え方を持つことが最終的に一番大切であると考える。

次の例5の2つの記述は、よりよい情報化やグローバル化に対して、今後の在り方について触れられているが、19世紀後半から20世紀にかけての現代世界の歩みに関して、「帝国主義」や「植民地」、「社会構造の大きな変化」について明確に踏まえられていないため「おおむね満足できる」(B)とした。

<例5：「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例>

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(プリントNo26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

今まで以上にメディアや製品が発展していくので、それらを適切に使えるように自分たちも成長していくことが大切。
情報化社会を築くには、自分たちが積極的にメディアを活用することが大切だと思う。

19世紀から20世紀にかけての社会の変化・情報の変化、そして、国際状況の変化(プリントNo26～28)から、学んだことを活かして、現代(君たち世代)がよりよいグローバル社会・情報化社会を築くにはどうしたらよいか？(自由記述)

自分から行動したり発言をたくさんして社会となるべく交流していく。様々な便利な機会を開発して幼児からお年寄りまでの人が安心して楽しく暮らせる町を作ればよいと思う。
マスメディアを有効活用して社会の変化を知るのもいいと思う。

5 今後の課題

・評価の(A)(B)(C)に対する、基準を設ける難しさを感じた。生徒にいかに気づかせるか、考えさせられるかが重要であると考えられる。教員側の主導で意見の良し悪しを判断するのではなく、生徒の独自の意見が大切であるため、必要事項が書かれているか、既習事項を踏まえられたかなどの評価基準を設定することも検討する必要がある。

・主体的に学習に取り組む態度を、「よりよいグローバル社会や情報社会の実現を視野に、自身や現代とのかかわりを踏まえて、主体的に追究しようとしている。」という評価規準で評価するため、単元のまとめとして、振り返りの記述をさせることには非常に意義があると感じた。生徒が何を学び、何を感じたのかをはかり知ることができるとともに、教員側の想定しない答えや、考え方に触れることもできたため、今後の授業づくりの一助となった。